

主要事業評価シート(第2次実施計画 / R1・2・3年度)

基本 事項	計画コード	事業名		部名	産業建設部
	17033	みえ森と緑の県民税市町交付金事業		課名	産業振興課 森林林業G
	施策の大綱	01:快適さを支える生活基盤の向上		財務	会計 01:一般会計
	基本施策	08:自然との共生		科	款 06:農林水産業費
	施策の方向	02:森林・里山・農地の保全		目	項 01:農林水産業費
戦略プロジェクト	04:「ジモトココロ」プロジェクト		目	目 06:林業振興費	
事業予定期間	H 26 ~ R 5 年度	主な根拠法令要綱等 みえ森と緑の県民税市町交付金事業実施要領			

目的 概要	対象	市民・団体
	目的	税導入の趣旨である、近年の集中豪雨などにより山地災害が増加していることから「災害に強い森林づくり」と、将来にわたり災害に強い森林を引き継いでいくため「県民全体で森林を支える社会づくり」を推進する。
概要		「災害に強い森林づくり」として、危険木の伐採や荒廃した里山や竹林の再生など「暮らしに身近な森林づくり」に取り組む。また、「県民全体で森林を支える社会づくり」として、人材の育成や学校等における森林環境教育・木育教室を開催し「森と木材と市民をつなぐ学びの場づくり」に取り組む。

		令和元年度	令和2年度	令和3年度	
事業の計画・実績	年度計画	森と木材のふれあい事業 ・森の講座(チェーンソー講習)の開催 ・幼稚園・保育園での森林学習等 里山・竹林生活環境保全事業 ・自治会等による竹林整備の支援 ○鈴鹿川等源流の森林づくり協議会の活動を支援 (参考:他事業にて実施するもの) ○危険木等伐採事業(公園管理)	森と木材のふれあい事業 ・森の講座(チェーンソー講習)の開催 ・幼稚園・保育園での森林学習等 里山・竹林生活環境保全事業 ・自治会等による竹林整備の支援 ○鈴鹿川等源流の森林づくり協議会の活動を支援 (参考:他事業にて実施するもの) ○危険木等伐採事業(公園管理)	森と木材のふれあい事業 ・森の講座(チェーンソー講習)の開催 ・幼稚園・保育園での森林学習等 里山・竹林生活環境保全事業 ・自治会等による竹林整備の支援 ○鈴鹿川等源流の森林づくり協議会の活動を支援 (参考:他事業にて実施するもの) ○危険木等伐採事業(公園管理)	
	年度実績	○森と木材のふれあい事業 ・森の講座の開催 1回 ・森林学習などの開催 3回 ○里山・竹林生活環境保全事業 ・ウッドチップの貸出しによる里山・竹林整備面積0.05ha ○鈴鹿川等源流の森林づくり協議会の活動支援 ・イベント3回開催 参加人数 300人			
事業費	計画額	事業費	3,500千円	3,500千円	5,000千円
		国庫支出金			
		県支出金	3,500千円	3,500千円	5,000千円
		地方債			
		その他			
	予算額	事業費	3,487千円		
		国庫支出金			
		県支出金	3,457千円		
		地方債			
		その他			
決算額	事業費	3,465千円			
	国庫支出金				
	県支出金	3,457千円			
	地方債				
	その他				
人件費	総人件費	3,925千円	0千円	0千円	
	一般職員	3,925千円	0千円	0千円	
	所要人員	0.50			
	会計年度任用職員等	0千円	0千円	0千円	
総コスト(+)		7,390千円	0千円	0千円	
受益者負担率		0.0%	0.0%	0.0%	

		令和元年度	令和2年度	令和3年度
指標	名称 森の講座(チェーンソー講習)受講者数	計画値 10	10	10
		実績値 4		
		単位 人	人	人
	名称 里山・竹林整備面積	計画値 2	2	2
	地域まちづくり協議会や森林保全団体による里山・竹林整備面積	実績値 0.05		
		単位 ha	ha	ha
名称	計画値			
	実績値			
	単位			

事業の改善	前評価	【前回評価の対応方針の概要を記入】 税導入の主旨である「災害に強い森林づくり」、「県民全体で森林を支える社会づくり」を推進するため、市広報や市ホームページなど様々な情報媒体を通じて、また、木と触れ合う機会、森林環境学習の場の創出、関連イベントの支援を通じて森林や木材に対する意識醸成を図る。
	改善行動	【前回評価の対応方針を踏まえ、どのような措置を講じたか】 みえ森と緑の県民税市町交付金を活用し実施した事業については、市広報や市ホームページに掲載した。市民に森林整備の必要性や木材利用の意義を伝えるための啓発に努め、また、鈴鹿川等源流の森林づくり協議会のイベントの支援を行った。

		評価	(判定)
事業の評価	活動	【計画どおりに実施できたか】 「災害に強い森林づくり」では、「里山・竹林生活環境保全事業」として、ウッドチップの購入、貸し出しを実施し、里山・竹林の整備を行う団体への活動支援を行った。 「県民全体で森林を支える社会づくり」では、「森と木材のふれあい事業」により、木に親しむ機会を設けた。イベント時には、市民に森林整備の大切さや木材利用の意識の向上を図るため、県民税パンフレットや啓発物品を配布し啓発に努めた。また、鈴鹿川等源流の森林づくり協議会の3イベントの支援などを行った。	A 計画どおり実施できた
	成果	【成果は順調に上がったか】 指標の計画値を達成することはできなかったが、「みえ森と緑の県民税交付金活用計画」に基づいた事業を計画どおり実施でき、「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」の推進に一定の寄与ができた。また、鈴鹿川等源流の森林づくり協議会を支援したことでイベントに参加する人数が昨年に比べ増加した。	B まずまず成果を得た

今後の対応方針	課題	【課題は何か】 税導入の主旨である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」推進のため事業に取り組んだが、より広く浸透させるため、継続して取り組むことが大切である。	<input type="checkbox"/> 拡大 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> その他 【その他の場合、その内容を記載】
	対応	【課題に対し、どのように対応するか】 引き続き、森林の持つ多面的機能を情報発信するための事業を実施し、鈴鹿川等源流の森林づくり協議会の活動を支援する。また、市自然公園「やまびこ」を安心して利用できるよう老朽化した箇所を整備する。	
	効果	【対応することで、どのような効果が期待できるか】 森林や木材について、学び・ふれあう機会を設けるとともに、市自然公園をより安心して訪れられる環境を整えることで、森林と市民の関係が身近となり、深まることが期待でき、税導入の主旨である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を推進につなげることができる。	
対応時期		令和2年度	

【1次評価者】	産業建設部 産業振興課 森林林業グループリーダー 葛西 裕二
【最終評価者】	産業建設部 産業振興課長 富田 真左哉

(参考:前期基本計画期間(H29-R3)における評価履歴)

		H29	H30	R1	R2	R3
判定	活動	A	A	A		
	成果	B	B	B		

令和元年度予算額(事業費)の内訳

予算額(事業費)		3,487 千円
内訳	平成30年度からの繰越額	千円
	令和元年度の最終予算額	3,487 千円
	令和2年度への繰越額	千円